



さんぽ保健師コラム

(2021年 師走号)

はいたい！産業保健専門職（保健師）の千葉です。

今年も残りわずかとなってきました。皆さまにとってはどのような1年だったでしょうか。

2021年沖縄県は最長4カ月という緊急事態宣言下で、それぞれが自粛に伴う生活様式の変化を経験されてきたと思います。

その中で今まで出来なかった新しい働き方の促進や、自粛期間中は家族との時間を大切にしようとした等の良い変化があったというお話もお聞きします。

沖縄産保のサービスでもオンライン開催やハイブリット形式の研修を開催するなどWEBを活用した新しい取組が進んだことは良い変化の一つと言えます。

さて11月19日に中部病院の高山義弘先生を講師に「職場における新型コロナウイルス感染症対策セミナー」を会場とオンラインのハイブリット形式で開催しました。会場35名、オンライン79名の計114名と多くの方に参加して頂きました。

講師の高山先生からは、分かりやすく具体的な感染症対策をお話しして頂きました。

その中で職場における感染で多い業種は建設業で「同乗しての長時間移動」での感染事例が多いそうです。単身での移動や換気などを対策として挙げられていました。

続いて多い飲食店の事例では「客側のマスクなしでの会話」、同様に小売業では「多人数との間接的な接触（紙幣、硬貨、商品）」などが多く報告されていました。

「エッセンシャルワーカー」とは、社会基盤を支えるために必要不可欠な仕事に従事する労働者のことを言います。医療・福祉や保育、運輸・物流、小売業、公共機関などが該当するとされます。

セミナーの中で「どうしてもエッセンシャルワーカーの感染リスクが高くなってしまふ。

しかしエッセンシャルワーカーをどう守っていくのかという視点が日本では薄いと感じる」と

高山先生が話していたことが印象的でした。自分自身の感染予防だけでなく、お店や施設等で

働いているエッセンシャルワーカーの感染を予防するためにもどのような行動が大切かを考えさせられる機会となりました。

皆さまが年末年始に向けてそれぞれの場所で心温かく過ごされますことを心より願っております。

良いお年をお迎えください。

(沖縄産業保健総合支援センター 産業保健専門職 千葉 千尋)